第１８回「トラック輸送における取引環境・労働時間改善熊本県地方協議会」

日　時：令和８年３月４日（水）１０：００～１１：５５

場　所：公益社団法人熊本トラック協会・３階会議室

【議事概要】

【事務局・九州運輸局熊本運輸支局輸送・監査部門運輸企画専門官　姫野光平】
・開会の言葉
・配布資料等の確認
・出席者紹介

【九州運輸局自動車交通部長　末吉博昭】
・開会挨拶

【熊本学園大学名誉教授（協議会座長）：坂本正】
・挨拶
・議事進行

【熊本学園大学名誉教授：坂本正】
朝からお忙しい中お集まりいただきまして大変ありがとうございます。今末吉部長から非常に適切な趣旨のことがございました。新しい物流の段階を迎えております。
何と言っても、生活を守るライフラインとしての物流の意義というのは非常に大きいものがありますが、ご承知のように、まだ多々問題を抱えております。
今日も新しいこの環境の中でどのように課題に取り組むのか、それを集中的に皆様方と議論、審議をしていきたいと思います。短い時間ですが最後までご協力の程よろしくお願いいたします。
まず、報告事項１. 各行政機関からの取組説明について、（１）九州７県「トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会」の合同開催について、九州運輸局よりご説明をお願いいたします。

○報告事項１（１）九州７県トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会の合同開催について
【事務局：九州運輸局自動車交通部貨物課長　白石勇人】
・報告事項１（１）について、資料１に基づき説明。

【熊本学園大学　坂本正】
ありがとうございました。
新しい試みとして、合同のＷＥＢでの会議でございます。急でございますが、私もこういう形でどのように参加できるのかと個人的には思っておりますが、この会議は長い時間になりますね。時代の流れですので、周知それからご協力の程お願いをしたいと思います。
次の議題に入りたいと思います。
それでは、次に報告事項１（２）公正取引委員会の取組について、公正取引委員会九州事務所よりご説明をお願いいたします。

○報告事項１（２）公正取引委員会の取組について
【オブザーバー：公正取引委員会事務総局九州事務所 取引適正化調査課　柏木智宏】
・報告１（２）について、資料２に基づき説明。

【熊本学園大学　坂本正】
ありがとうございました。公取の方がかなり具体的に踏み込んで、しかも具体例がずっと出てきている。これは周知徹底ということでは、まだできていない部分があるが、違反のことを含めて相当数、展開されてると考えてよろしいか。

【公正取引委員会事務総局九州事務所 取引適正化調査課　柏木智宏】
取適法の改正前後、昨年末から今年の初めにかけて、各県で対面の講習会を行っている他、私自ら行って説明と、機会を増やして普及啓発に努めています。

【熊本学園大学　坂本正】
熊本県の事例もありますが、最後のグッドプラクティスは全体を見通してということで、今まで想定していなかった非常に優れた事例が挙がっている。何かご意見、感想等ございましたらどうぞ。ご発言のときは、

所属とお名前をお願いします。今日初めて知った、素晴らしい展開なので、柏木さんが自らずっとあちこち回っているということか。反応はどうか。ここまでやるのかというのは、何かそういうものがあるか。

【公正取引委員会事務総局九州事務所 取引適正化調査課　柏木智宏】
　今日は説明出来なかったが、支払いに関しては紙の手形が一律に禁止され、振り込み手数料に関しても、委託者側が原則負担ということになるなど、実際に経営の面でも対応をとらないといけないものがあり、事業者の関心は非常に高く、そういった質問も非常に多かった。

【熊本学園大学　坂本正】
　ということは、それだけ具体的に進んでいく可能性が高いと考えてよろしいか。

【公正取引委員会事務総局九州事務所 取引適正化調査課　柏木智宏】
　そうです。我々としてはこの法律の更なる普及啓発に努めるとともに、違反するということであれば厳正な執行ということを両輪でやっていく必要があると考えております。

【熊本学園大学　坂本正】
　わかりました。前回からかなり踏み込んだ話で、これが進んでいくと現場の方は助かると思っていたが、既にこれだけの成果、調査報告、あるいは展望が出てきて大変ありがたいことだと思います。
　それでは次の議題に入りたいと思います。
　次に、協議事項１. これまでの取組状況報告及び次年度の方向性について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○協議事項１. これまでの取組状況報告及び次年度の方向性について
【事務局：九州運輸局熊本運輸支局輸送・監査部門首席運輸企画専門官　平野光祐】
　・協議事項１. について、資料３に基づき説明。

【熊本学園大学　坂本正】
　大変ありがとうございました。平成２７年度から長きにわたり議論した成果でございます。法改正の中で具体的にどこまで周知徹底できるのか、またコストもかかるということでいろんな問題がございます。
　今後の課題につきましては皆さんまたこれからまたご協力いただくことにいたしまして、皆様方から１人１人感想等をお伺いして、反映させていきたいと思います。

○協議事項２. 全体意見交換
【全国交通運輸労働組合総連合熊本県支部　矢野　良輔】
　大変お疲れ様でございます。私も平成２７年から１１年間ずっと労働組合側ということで参加をさせていただいております。最初のころからずっとトラック事業をやっている中でなかなか厳しいという状況から、ましてやトラックで働く労働者がこのままだといなくなるということで、昔は一般の産業が２千時間くらいでいたものが、トラックは３千時間あるという状況でしたので、私はこの会に入って皆様のいろんな意見を聞きながら、本当に良い協議会ができたなと思っておりました。なおかつ法律改正に関しても、先ほど公正取引委員会の方からもお話がありましたが、法律を使いながら、なかなか簡単にはいかないですが、少しでもトラック事業が正しく経営されていくよう変わっていくことは非常に良かったのではないかと考えているところでございます。今皆様がご承知の通り、日本全国にトラック事業者が６万３千社あります。そのうち約５千社が所謂零細事業者でありますので、約５万８千社が現存している運送事業者ということになります。平成２年に所謂物流２法が改正されまして、当時は４万数千社であったと思いますが、約１万数千社増えたということで、よりトラック事業が過当競争になってきた。これを我々労働組合側としては、働く者側としては、もう少しできれば取りまとめをしてもらいたいと思う。数を平成２年に戻してもらいたいという願望です。それと、今春闘が始まっておりまして、各企業が要求書を、物流事業者も組合側へ出しているかと思います。これについては、日本労働組合連合会という７００万人が加入している組合がありますが、その平均が５％であることに対して、物流事業の産業別では半分、２．５％しか獲得できていない。ということは、全産業平均の半分しか取れないので、結果的には産業別に縮まってしまい、このままでは出来ない。そのためには何を言いたいかというと、お客様、荷主様の絶大なる協力がないと、我々の労働組合は１企業１組合ということですので、申し上げにくいが是非とも運賃の値上げをよろしくお願いしたいという意見です。よろしくお願いいたします。

【熊本学園大学　坂本正】
　議論の中ではなかなか出てこなかったが、会社が反映しないと賃金も上がっていかないということで、流通のシステムが変わっていかない限りは大変厳しい。その実情ございましたので、これは直接ここではありませんけど今の議題も、運輸局の方も勘案の上、労働局もいらっしゃいますので、ご考慮いただきたい。

【全日本運輸産業労働組合熊本県連合会　山野雄一朗】
　お疲れ様です。運輸労連の山野と申します。私も労働組合の立場で、約１０年間この会議に参加をさせていただいております。
　これまでの実証実験等も含めて、ご協力をいただいた事業者の皆様にまず敬意を表したいと思います。今度の令和８年度の取り組みにつきましては、３月１６日の会議を受けまして、出来れば事務局の方に検討いただきたいのは、九州として統一した取り組みを定めることもありかと思いました。これまでの取り組みが後退することが無いよう、更なる前進を図られるような取り組み内容にしていただければと思います。以上です。

【熊本学園大学　坂本正】
　感想としてはどうですか。少しは成果が上がっていると思いますか。

【全日本運輸産業労働組合熊本県連合会　山野雄一朗】
　当然として成果は上がったと思いますが、本当に協力いただいた運送会社のご苦労も大変なものだったのだろうと思います。

【熊本交通運輸㈱　住永富司】
　大変勉強させていただきました。取組を聞いていて少しずつ活かされていると感じていますので、私も青年部の副会長をしておりますので、若手が働きやすい、働きたいと思えるような方向に進んでいると認識しております。そしてこの委員会でこの立場についた責任を持ちながら参加したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【㈱手野運送　武藤哲裕】
　手野運送の武藤と申します。私はこの委員会に参加したのは親父からバトンタッチを受けまして参加しております。その当時からしますと、すごく味方が増えたなと思います。荷待ちの問題などは運輸局のトラックＧメンがいらっしゃる。だいぶ味方が増えてきている中で、法律が大きく変わろうとしています。その中で私たち運送屋も変わっていかないといけない。お客さんに駄目なことも良いよとやっていると、今使っている運送会社が免許を更新が出来なくなったらどうしますか。そういったことにならないよう、私たちが大きく声を上げていかないといけない。自分の目標ですが、小学生２年生の息子がおります、今１００％うちの会社を継ぎたくないと言われます。お父さん全然休みが無いじゃないかと。こういう業界、青果を運ぶというのは本当に難しくて、時代に合わせていかないと積んでくれるドライバーがいないのかなと。息子にお父さん俺が継ぎたいと言わせられることが長い目での目標だと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【熊本学園大学　坂本正】
　ご自身が継ぐときには問題なかったのか。

【㈱手野運送　武藤哲裕】
　祖父から目に入れても痛くないほどかわいがってもらった。跡取りということで裏切れないなということであった。

【九州産交運輸㈱　宮原淳一】
　九州産交運輸の宮原でございます。私どもとしましても官公庁、トラック協会様のおかげで、お客様の方には料金の転嫁は進んでおりますが、私どもの人件費に１００％転嫁できているかというとまだまだである。暫定税率など下がりますけれども、またトランプさんの件もある。せっかく２年ぐらい上げていただいたのが、暫定税率の廃止で安くなったとお客様から言われるのがある。これをどうやってベースで持っていくのか、元々がどうでしょう１２０円、うちはインタンクですので１１０円弱ですけれども、何がベースになっているのかがはっきりしていないというのも、まあ私らが悪いのですが、料金を決めたときに過当競争でダンピングして悪くしたのは、本来私らです。仕事を取るために安くして、結果としてそうなってしまっ

ている。今、契約書を見直しています。実は中には契約もはっきりしていないところもある。そういった部分に関してもお客様にお願いをしています。
　あとはお願いなんですけれども、燃料費や人件費というのは、事業費としてある程度見えているが、私ら運送屋を困らせているのは、修理費です。街中の整備工場が無くなっていますので、ディーラーに持ち込むがディーラーも人手不足で整備士がいないため、アッセンブリでの交換なんです。大型で１００万円掛かる場合も出てくる。そういった指標というのはものすごく難しいと思いますが、お客様に出す修理費の指標が無い。そういった部分のコストについて、お客さんに展開できるベースがあればと思います。

【熊本学園大学　坂本正】
　ありがとうございました。具体的に契約の見直しとか顧客と話をして、最後に出てきた修理費の部分の指標が無いというのは、なるほどと思うが今まで全然無くて、これからの見通しというのはどうですか。

【九州産交運輸㈱　宮原淳一】
　上がっていく一方です。逆に期間も無い。大手の所は自分の所で整備会社を持っているところもありますけれど、整備士自身がトラックドライバーよりも少ない。

【熊本学園大学　坂本正】
　その辺は運輸局としてはいかがか。

【九州運輸局 白石勇人】
　我々、整備事業も所管していますので、今お話しがあった整備士不足については深刻に受け止めております。人材確保の取組として、トラック、バス、タクシーなどのドライバーに加えて整備士についても、自衛隊の退官予定者に働きかけを行うなどの取組を行っており、工業高校などを支局長に訪問いただいてセールスもしていますが、なかなか簡単にはいかない問題だと思っています。整備士がいない関係で整備費も上がる。以前だとその日に受けていたものが何日間も掛かると、その間、車両が動きませんので経営を圧迫しているということをこれまでもお聞きしているところです。そういった声は本省にも届けていきたいと思います。修理も高度化していることも聞きますし、車両価格が高騰しているのも承知しています。適正原価の２年後の施行に向けて現在実態調査をやっておりますので、高騰している車両費ですとか、高騰している修理費の数字が集まってくるかと思いますので、そういった結果を踏まえて適正な原価を定めてそれを収受できる形にするということを目指して行きたいと考えています。

【九州運輸局熊本運輸支局長 吉岡順一】
　私どもが所管していますトラック業界、バス業界、タクシー業界、どの業界も運転手が足りていません。同様に整備士に関しても人手不足が深刻化しています。
　運輸支局として何が出来るかということで、毎年１０校ほど高校の方を訪問して校長先生や教頭先生、進路指導の先生方へのＰＲをここ１０年程続けております。先生から話が出るのは、高校訪問しても進路が決まっている状況で遅いですよという話も実際ございまして、今年度からは、小学校にも４校ほど訪問して、いかに幼少期のうちから自動車に興味を持ってもらえるようにと、小学２年生を対象にチラシの配布をするなどの取り組みを行いました。これらの取り組みは、人手不足解消への特効薬的なものではないのですが、自動車に興味をもってもらいつつ、トラック業界、整備業界などの自動車業界は良い職場、魅力ある職場なんだというＰＲを、課題解決に向け粘り強く取り組んでいきたいと考えているところでございます。

【熊本学園大学　坂本正】
　高校の場合に行って遅いというのは、１０月頃に行って遅いということなんですか。

【熊本運輸支局 吉岡順一】
　訪問時期が、高校３年生では就活終盤になり無理なので、２年生を対象に取組んできたが、高校生になると進路あるいは将来の職種希望がある程度固まってきているとのことで、その前にいかに自動車に興味を持ってもらうかという観点から、例えば幼少期のような早いうちに動いた方が良いというところです。

【ヤマト運輸㈱熊本主管支店　小四郎丸 昭久】
　今日は代理で参加させていただきましたヤマト運輸の小四郎丸と申します。貴重な意見を頂きまして大変ありがとうございました。当社としましてもいろんなモーダルシフトの変更など、いろいろなことに手をつけておりまして、飛行機を使って天草の方から、長崎の方からという新しい輸送の形も作って参りました

ので、今日頂いた皆様の意見を持ち帰って、またいろいろなことに挑戦していきたいと思います。

【熊本学園大学　坂本正】
　今、いろいろ言われたのは高度なシステムのようですけれども、もう少しわかりやすく説明頂けると。

【ヤマト運輸㈱熊本主管支店　小四郎丸 昭久】
　北九州の夜のフライトを使っておりまして、そのあたりの飛行機を使って翌日の朝、豊洲市場の方に入れる便とか。地元関東の輸送会社と協力させていただいてそういったものを作ったと。こちらから上げてくるのは当然私どもヤマト運輸で上げさせていただいて、あと熊本空港を経由して当日にあげるとか、長距離ではない、長距離だけれども区間、区間でモードを切り替えるということもやっておりますので、そういったところで長距離であったりとか、休息であったりとかという話も出ましたので、そういったところは私どもの飛行機であったりとか、いろいろなモードを便利に使っていただければ良いのかなと思いました。

【熊本学園大学　坂本正】
　飛行機を使って、いろんなモードを変える形での組み合わせをしていっているという取組なのですね。

【ヤマト運輸㈱熊本主管支店　小四郎丸 昭久】
　陸も一緒ですが、飛行機も当然、上りよりも下りの方が荷量が多くて、上りはまだまだ空いておりますので、そういったところをうまく利用していただければまた新しい輸送が出来るのかなと思っております。

【日本通運㈱熊本支店　杉野孝志】
　日本通運の杉野と申します。今日は支店長代理ということで参加させていただきました。当社の方でも料金改定には力を入れておりますが、昔に比べてやはりお客様が料金交渉の場にテーブルに乗るというのは非常に安易になったと思います。ただ我々の思っているような料金改定に成り立っているのかというとまだまだそこまでは、段階的に行くべきなのかなという状況です。昔に比べたら、本当に顧客の皆様からテーブルに乗っていただくということは普通に対応していただけているような状況にはなっているのかと思っておりまして、これから先、もっと我々としても進めていかなければならないなと感じているところです。後継者の話であるが、当社の方も魅力ある会社でありたいと常々思っておりますが、なにぶん高校生からの採用に向けていきますが、ほぼ来ません。そこで毎年困っておりまして、いろんな工業高校なり高校からの卒業者で社会人になりたいという方が多い高校に行くが、生徒さんや先生と話す中で運送業に興味がる人が出てこない。我々もパンフレットなり、ＷＥＢなり、動画なりを持ち込んで仕事の内容を知ってもらうことが重要だと思う。少しずつ興味を持ってもらう。仕事って楽しいよねということが高校生から出てくるようになりまして、地道にやっていかなくちゃいけないと思っていまして、先ほど話があったように小学生からというのは非常に有難い話だと思う。興味を持ってもらうと運送の楽しみがあると思う。厳しい面ももちろんあるんですが、そこの楽しい所から始まって後に給料などに繋がって、一般的にこの業界が魅力ある業界になるということに繋がっていければいいかなと思っています。地道な活動を我々もまだしていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

【熊本学園大学　坂本正】
　ありがとうございました。前回も日本通運さんがということを言ったことがありますが、なかなか厳しい業界の中で苦労がいろいろあるんだなと思います。

【本田技研工業㈱熊本製作所　松本竜二】
　本田技研の松本でございます。荷主企業ということで、お金に対する反映もそうですし、荷役・荷待ち時間を把握することが大事。荷待ち・荷役時間の把握を進めている。６０分を超えるものが１８０件ぐらい、全体の２％弱ぐらい。毎月ＰＤＣＡ回しながら６０分を切るよう取り組んでおります。コストも含めてしっかりやっていきたい。

【㈱鶴屋百貨店　水田竜一】
　鶴屋百貨店管理部の水田でございます。前回も同じことを申し上げましたが、１００％着荷主なので且つ大量に商品が届くことはなく、多頻度で納品がなされる。２トン車で満載では来ない。アパレルも商品を絞っておりまして以前のように大量に投入して大量に戻すということがほとんど無くなってきている。アパレルそのものも分荷をしています。２０２４年問題の影響としては、１２月の繁忙期、１日から２日くらい、発注に対して納品の時間が掛かっている。そのことを計算して注文を入れるような形を取るように全体と

しては行っております。時間はそれほど遅延しているわけではない。ただ幹線を使うようなものは、以前より時間が掛かっている。発注に対するリードタイムをある程度計算をしながら注文している状況です。プラットフォームもそんなに大きくありませんので、時間もあまり待ち時間は無いような状態ですし、多い時は６から７社が次から次と納品にくる。逆に捌かないと私どもも仕事にならないということで、かなり早めには出来ていると思いますが、まだシステム化とかには行きついておりません。人手がいないという話ですが我々小売業も人がいない。接客が嫌とか増えている。こういった労働環境の差によって人の集まりが違うんだなということをしみじみ感じております。３ＰＬで業者をお願いしておりますが、そこも人がいない。将来的にどうするかについては、非常に困っている状況です。３ＰＬですら人が集まっていないのではあれば、運営に支障を来たす一歩手前まで来ている。全体的に私どもも料金を上げるとか、そういったことをしなければなりませんが、そのための販売への商品の転嫁ですね、これも非常に難しくて非常にそこを現在、全体で検討しているところでございます。

【熊本学園大学　坂本正】
　ありがとうございました。いろいろと大変ですね。小売りのところで以前と比べて、入ってくる流れなどはどうですか。

【㈱鶴屋百貨店　水田竜一】
　やはり１２月等になると、当然幹線が渋滞して参りますのでこれは私ども小売りだけでなく、いろんな物流の共有をしたり、ハブセンターを中国・四国などに作ったりしてリードタイムを短くしようされている、あるいはドライバーの時間を短くしようということは存じ上げていますが、結果として以前よりは時間がかかっているということです。

【熊本県経済農業協同組合連合会　末廣 健】
　本日は大変ありがとうございました。
　私たち経済連としましても第一次産業の農業は生命維持産業として捉えております。ただ消費していただかないといけないと考えております。やはり運んでいただかないと一次産業も成り立っていかないと考えております。本日勉強させていただいた内容につきましては、産地の方にしっかり落として、理解醸成を深めていって持続可能な農業に繋がるように取り組んでいきたい。

【熊本県農業協同組合中央会　山本浩二】
　今日はありがとうございました。いろいろと勉強させていただきましてありがたいと思っております。
　いろいろ課題はあります。ただ、お互いなかなか人がいない中でちゃんと来ていただけるような、職場として選んでいただけるような環境にしていかなければならないのは当然の話ですので、それぞれどこかが負担をしてではなく、お互いＷＩＮ－ＷＩＮで改善していくべきであろうと思います。我々農業の方も農家は減ってますし、コストは上がってきている、それが価格になかなか転嫁出来ていない厳しい状況の中であるということです。世界の環境が大きく変わっていっていることも農業にまともに影響が出ている状況で非常に困惑もしていますが、協議会の中でいろんな業界、問題点を抱えておられるということで、共通する部分がいろいろあるんだなということで勉強させていただきました。今後もお互い協力出来るところは協力して話し合って前に進めていければいいなと思いました。

【熊本学園大学　坂本正】
　これだけのメンバーがいろいろ、利害関係が一致するところで是非進めていきたい。
　では最後に全体を通して、下川会長より何かご意見等はございませんか。

【（公社）熊本県トラック協会　会長：下川公一郎】
　トラック協会の下川です。私も事業者側から１０年間参加している。
　いろいろと今日ご意見いただきまして、我々の事業は全ての産業で生産される荷物を運んでいるわけで、ここだけしか運ばないという話ではない。国民生活全ての部分の産業で生産される部分の輸送を担っている。どこか欠けてもいけないというのが一番であります。全ての運送に関する法律の中で進めなければならないということであります。この１０年間で少しずつ良くはなってきているが、今年労働局から時間外労働に関して私どもの会員企業が罰金刑を受けている事案も実際発生しているところです。今後更新制が始まれば事業の取消が出てくるのかと懸念している。
　あの大きな日本郵便でさえ事業許可取消となっている。荷主さんの使っているところの運送会社が更新できなくて許可取消になれば、多分熊本の運送事業者は誰もその荷主の仕事を受けない。その危機感を荷主

の皆様にも、我々のアナウンスが足りないところもあると思うが、持っていただきたい。昨年６月に出来ましたトラック新法も２年後くらいには施行されるところなので、今アンケートで適正原価の調査がなされている。ここ数年で大型トラックも５００万円以上上がっております。昨年１０月からはサイバー攻撃に対する義務化が始まり、その設備で１００万円上がっておりますし、令和１０年にはプリクラッシュブレーキの効果も世界基準に上がる。それでまた車両代が１００万円程上がる。整備費を含めて車両費も上がる見通しである。こういう物価が上がらない時の原価で標準的な運賃は作られております。今後２年後くらいに示される適正原価については、現状の原価が上がった部分で取り組まれるということで、巷では今の標準的運賃に近い部分が適正原価になるのではないかという話も出ています。そうすると１０万円の運賃が２０万円くらいの運賃になる可能性もある。早め早めに価格転嫁の話を我々も進めていかないと、お客さんに値上げしてもらえなければ、我々も最終的には許可更新が出来なくなる。こういった話を早め早めに進めるためにも、協議会の皆様のご協力がないといけないため、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【熊本学園大学　坂本正】
　大変ありがとうございました。会長の方か大変厳しい自戒を込めて協議会の課題というものも出していただいたと思います。今日は今後の課題ということも含めまして、今までのことを総括していろいろ議論をいただきました。有意義な議論が出来たというふうに思います。これからの展望というのは、今日の話を伺ってもこのままいけば価格転嫁が非常に厳しいし、運ぶ方も大変厳しい状況になるということであります。それでは皆様方のご協力を得て十分議論が出来たと思いますので、マイクの方を事務局の方にお渡しいたします。どうも大変ありがとうございました。

【熊本労働局　労働基準部長：斉藤将】
　・閉会挨拶

【事務局・九州運輸局熊本運輸支局輸送・監査部門運輸企画専門官　姫野光平】
　・閉会の言葉

　ここで全ての議事が終了し、会議は終了した。（～11:55）